

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	155人	社会	155人	数学	154人
	理科	155人	英語	154人		

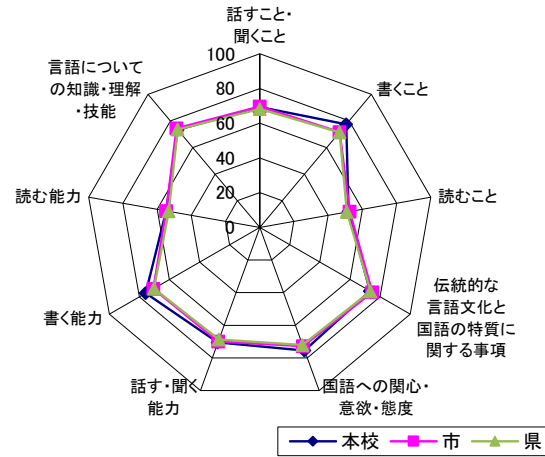
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.3	69.6	68.2
	書くこと	77.5	71.7	71.5
	読むこと	52.0	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.3	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	75.5	72.8	72.1
	話す・聞く能力	70.5	69.9	68.7
	書く能力	75.8	70.7	70.3
	読む能力	54.7	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	73.4	74.5	73.5



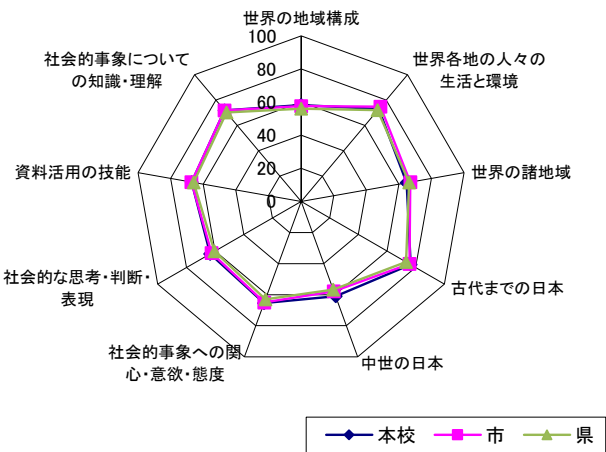
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことに関しては、県よりも1.1ポイント上回っており、市よりも0.8ポイント下回った。設問別では、基礎的な話し方・聞き方の理解はできている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の学習形態を工夫し、スピーチ、意見文の発表、ディベート、小グループでの話し合い活動を取り入れながら、話すこと・聞くことの指導を継続していく。
書くこと	○書くことについては、県より6ポイント上回り、市より5.8ポイント上回った。それぞれの設問にある書く条件に沿った内容で書けている。 ●材料の整理や資料の特徴を読み取り、書く設問ではやや正答率が低めである。	・教科書で取り上げた作品ごとに、感想や自分の意見を文章にする経験を通して、文章を書くことに慣れさせる。 ・授業の中で、メモを取る活動や特徴を捉える活動を設定し、書く機会を多くすることで、書く力を伸ばす。
読むこと	○読むことについては県よりも1ポイント、市よりは0.6ポイント下回った。設問別では、説明文を読む設問の正答率が市や県を上回っている。 ●文学作品の内容を読み取る設問については登場人物の心情を捉える問題は市と県より4ポイント下回っている。	・文学的文章と説明的文章の読み取りも、日頃から音読に取り組み、説明や評論の文章は、接続詞をもとに構成や展開に注目させる指導を行う。 ・幅広いジャンルの本に親しめるように読書指導を継続して行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、県より0.4ポイント、市より1.5ポイント下回っている。設問別では、漢字の書き取りについて正答率が高い。 ●漢字の読み書きについては同訓・同音に関するもの、また歴史的仮名遣いの正答率が県や市の平均を下回っているものもある。	・漢字学習の定着のために、漢字学習ノートを活用し、毎週漢字テストを行う取り組みを継続しながら、漢字の語句の意味を理解して、文章の中で使えるよう指導する。 ・文章中や身近で接した語句の意味調べなどを積極的に行うように指導していく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	58.2	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	72.9	74.6	71.9
	世界の諸地域	64.7	67.0	66.3
	古代までの日本	76.5	75.7	73.3
	中世の日本	61.1	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	65.4	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	63.4	62.5	60.5
	資料活用・技能	67.1	67.2	65.9
	社会的な事象についての知識・理解	71.8	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

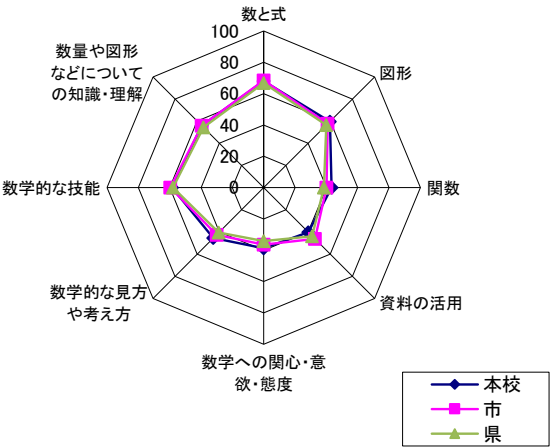
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○地図中の緯度と経度を読み取る問題の正答率は県の平均を4.3ポイント上回っており、資料活用・技能を高めるような授業実践の成果であると考えられる。 ●世界の地域区分を問う問題の正答率が県の平均を1.0ポイント下回っており、社会的な事象への知識・理解が課題である。	・様々な地図や地球儀を用いた授業を展開することで資料活用・技能を高める。 ・日本との関わりや自然環境などの特色を紹介するなど学習課題を工夫することで世界の国々への理解を深めさせる。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の生活の様子を複数の資料から読み取る問題の正答率が県の平均を5.4ポイント上回っている。 ●雨温図から世界の気候帯を読み取る問題の正答率が県の平均を1.6ポイント下回っており、世界の気候帯への理解に課題がある。	・様々なグラフの特徴と読み取り方を授業に取り入れることで理解を深めさせたい。特に雨温図については視聴覚資料を用いることで関連付けて理解を深めさせる。
世界の諸地域	○円グラフや文章をもとにアメリカ合衆国の農業の特色を問う問題の正答率が県の平均を11.4ポイント上回っており、社会的な思考・判断・表現力を育成する授業実践の成果であると考えられる。 ●西アジアや中央アジアの資源や産業に関する問題の正答率が県の平均を12.0ポイント下回っており、西アジアや中央アジアの社会的な事象への理解が課題である。	・主題図の読み取りを授業に多く取り入れることで、世界の諸地域の特色の理解を促す。一つの資料だけでは各地域の特色を把握することは難しいため、産業や気候、地形や分布など様々な資料を組み合わせ、必要な情報を読み取るような授業の展開を工夫する。
古代までの日本	○古代文明の特色の理解を問う問題では県の平均を5.3ポイント上回っている。それぞれの古代文明の特徴を理解できていると考えられる。 ●年表から聖徳太子の頃の対外関係を問う問題の正答率が県の平均とほぼ同じであるため、時系列を正しく理解させることが課題である。	・年表を用いた授業を取り入れることで、社会的な事象の因果関係や時系列への理解を深められるようにする。 ・当時の歴史資料から読み取る機会を多く設け、資料活用・技能を高められるような授業を展開する。
中世の日本	○全ての設問で県の平均を上回っている。特に日明貿易の特色を問う問題の正答率が県の平均よりも8.6ポイント上回っている。記述式の問題で生徒の思考力・判断力・表現力を問う問題であり、社会的な思考・判断・表現を高めるような授業実践を重ねてきた成果であると考えられる。	・各時代の特色を把握できるように、政治のしくみや中心人物が取り組んだことを理解させる。その際、視聴覚教材を用いるなど、教材を工夫する。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.0	68.4	66.8
	図形	59.7	57.8	56.5
	関数	43.3	40.1	38.5
	資料の活用	40.2	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	38.7	36.4	34.1
	数学的な見方・考え方	45.4	42.5	40.5
	数学的な技能	58.5	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	55.9	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

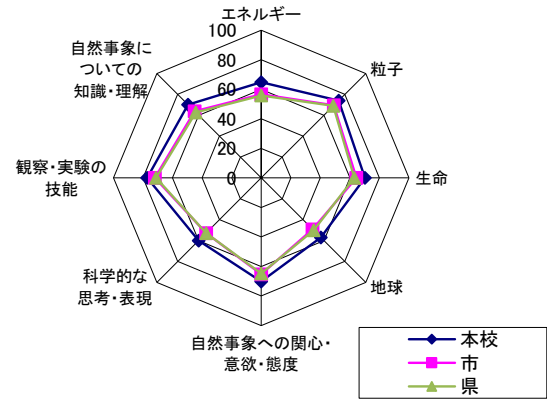
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本校の平均正答率は県の平均よりやや高く、市の平均とほぼ同じである。 ○計算問題(負の数の乗法)の正答率は94.1%で、市を6.3ポイント、県を6.4ポイント上回っている。 ○1元1次方程式や比例式を用いて解決する文章問題の正答率は51.3%で、市を5.4ポイント、県を12.0ポイント上回っている。思考力・判断力の育成を目指した授業実践の成果であると考えられる。 ●文字式の計算、1元1次方程式の計算において、それぞれ1問ずつ県の正答率を4ポイント程度下回ったものがある。1次式の減法の計算の仕方や、文字式の表し方、等式の性質への理解に課題がみられる。	・文字式の計算に慣れてくると、その文字式が示す計算の構造について意識しなくなる。これは、速く正確に計算するために必要なことであるが、計算の構造を説明する力も備わっていないなければならない。計算の構造をもとに、計算が正しかったかどうか自ら確認できる力の育成を図る。
図形	本校の平均正答率は県、市の平均より高い。 ○回転移動の角の大きさを答える問題の正答率は69.1%で、市を5.1ポイント、県を6.1ポイント上回っている。 ○三角錐の投影図の問題の正答率は62.5%で、市を4.9ポイント、県を7.4ポイント上回っている。具体物やデジタル教科書を用いて視覚的に理解する授業実践の成果であると考えられる。 ○柱体と錐体の体積の関係の問題の正答率は67.1%で、市を6.5ポイント、県を7.5ポイント上回っている。 ●線分の垂直二等分線を利用した作図の問題の正答率は20.4%で、市を3.0ポイント、県を2.3ポイント下回っている。	・「線分の垂直二等分線」、「角の二等分線」の学習では、図形のもつ性質(直線上の点のもつ性質)と関連付ける場面がある。それらの性質をもとに解決する作図問題の演習を授業に多く取り入れ、作図に対する興味・関心を高めながら技能の定着を図る。
関数	本校の平均正答率は県、市の平均より高い。思考力・判断力が必要な以下の2問は、県、市の平均よりも特に高い。 ○三角形の面積の変化の様子を式で表し、yの値からxの値を求める問題の正答率は50.3%で、市を5.8ポイント、県を7.6ポイント上回っている。 ○2つの数量の関係が比例であることを判断する問題の正答率は49.3%で、市を13.4ポイント、県を14.4ポイント上回っている。 ●市、県の平均を大きく上回っているものの、平均正答率は43.3%と低い。	・2変数の関係を表・式・グラフで表現するなど技能にかかわる学習が中心となり、関数の概念やそれぞれの関数のもつ特徴を用いて解決する活用問題への取組が不足する傾向にある。具体的な事象を題材に関数的に深くとらえる学習時間を十分確保する。
資料の活用	本校の平均正答率は県、市の平均より低い。6問中5問の正答率が県を下回っており、以下の2問は、県、市の平均よりも特に低い。 ●度数分布表から階級の相対度数を求める問題の正答率は40.8%で、市を13.1ポイント、県を8.3ポイント下回っている。 ●ある数の真の値の範囲を不等号を使って表す問題の正答率は42.8%で、市を8.3ポイント、県を7.4ポイント下回っている。	・数学科年間学習指導計画の見直しを図り、「資料の活用」の授業時間を可能な範囲で増やす。 ・代表値をはじめとする各用語について、意味の理解にとどまらず、活用する場面や範囲について研究する時間を確保する。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	64.8	56.6	55.8
	粒子	74.1	69.6	69.0
	生命	70.2	64.4	63.0
	地球	57.0	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.1	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	60.0	52.8	52.8
	観察・実験の技能	77.2	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	70.1	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

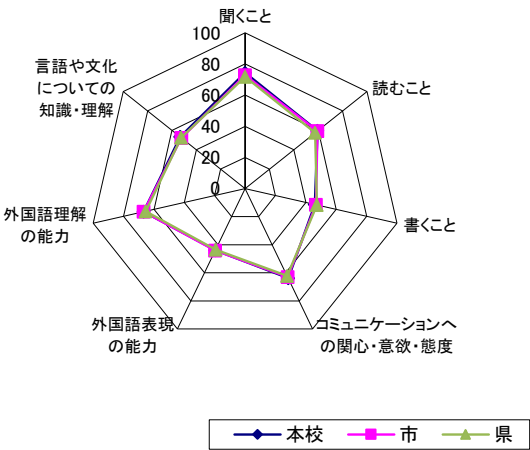
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域全体では、市と県の平均を8～9ポイント上回っている。設問別では、おもりがばねを引く力を矢印で表す問題で、市と県の平均を約22ポイント上回っている。また、圧力の大きさの求め方に関する問題で、市と県の平均を約12ポイント上回っている。 ●設問別で、おもりがばねを引く力を矢印で表す問題で、正答率は市と県を上回っているものの、34.6%の生徒が同じ誤答を選択している。また、ばねを指で引っ張った力の大きさを考える問題で、正答率が39.9%と低く、課題の残る結果である。	・おもりがばねを引く力の矢印をかくときに、作用点の位置を重心の位置にとってしまう生徒が多い。2つの物体が接している場所が作用点になるということや、重力の大きさを表す力の矢印と異なる点を強調して説明しながら、それらの違いを対比できる練習問題に取り組ませる。 ・力の大きさとばねののびの関係を、比の関係を使って計算で求めることを苦手とする生徒が多い結果となった。小テストを実施し、生徒の習熟度をさらに細かくチェックしながら、その結果を指導に生かしていく。
粒子	○領域全体では、市と県の平均を約5ポイント上回っている。設問別では、気体の発生の実験で1本目の試験管に空気が多く含まれていることを指摘できるかの問題で、市と県の平均を約16ポイント上回っている。また、二酸化炭素を発生させられるかの問題で、県の平均を約15.5ポイント上回っている。 ●設問別で、ろ過を正しく行うことができるかの問題で、正答率が市と県をわずかに下回っている。また、グラフから析出した結晶の質量を求める問題で、正答率は市と県を上回っているものの、31.4%の生徒が同じ誤答を選択している。	・ろ過の装置を使った実験を確実に生徒一人一人に体験させることで、正しい扱い方のポイントを習得させる。 ・溶解度曲線のグラフの見方や活用の仕方が身についておらず、再結晶の析出量を求められない生徒が多い。誤答を選択した生徒の多くは、水溶液を冷やした後の温度の溶解度を読み取り、その値が再結晶の量だという間違った理解をしていた。再結晶の量を求める計算は最終的には減法である点を強調しながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。
生命	○領域全体では、市と県の平均を約6ポイント上回っている。設問別では、裸子植物に分類される植物に関する問題で、県の平均を10.3ポイント上回っている。また、対照実験を行う理由を考えることができるかを問われた問題で、県の平均を9.7ポイント上回った。 ●設問別で、2つの実験結果から考察できることを説明できるかを問われた問題で、市と県の平均とほぼ等しい結果ではあったが、正答率が41.2%と低かった。	・光合成しているという結果と、赤い葉の中にも緑色の色素が含まれているという結果から、見た目は赤いノムラミジでもその中に葉緑体が含まれているということを説明できない生徒が半数以上いた。問題が、「他の植物の緑色の葉と同じように(ア)ことが考えられるね。」だったために、「光合成している」という誤答が多かったと考えられる。複数の実験結果を踏まえて何が言えるかということや、実際の実験後の考察や小テスト等で記述させ、考えさせる場面を意図的に増やし、考察力の向上を図る。
地球	○領域全体では、市と県の平均を約7ポイント上回っている。設問別では、断層に関する問題で、市と県の平均を約16ポイント上回っている。また、凝灰岩の地層と火山活動との関係を問われた問題で、市の平均を11.6%上回っている。 ●設問別で、示準化石や示相化石に関する問題で、市と県の平均を上回ってはいるものの、正答率が39.9%と低く、37.9%の生徒が同じ誤答を選択している。	・化石に関する問題で誤答を選択した生徒の大部分は、示相化石に関する知識が不十分で、化石から当時の環境を推測できていなかった。問題に登場してきた化石は「シジミ」である。「シジミ」と「アサリ」の化石から分かることの違いを整理できずにいる生徒が多いと考えられる。授業での説明において、混同しやすいポイントを丁寧に指導したり、実際にそれらの生物が生活している様子を写真や動画で紹介したりすることで、より理解が深まるように工夫していく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	74.4	72.8	71.8
	読むこと	59.5	59.4	57.5
	書くこと	45.9	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	63.8	63.0	62.2
	外国語表現の能力	44.0	44.2	43.6
	外国語理解の能力	66.8	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	53.3	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことに関しては、市より1.6ポイント、県より2.6ポイント上回っている。設問別でも、おおむね正答率が、県よりも上回っている。 ○絵に関する聞き取りの正答率も高い。 ●対話文に対する聞き取りでは、正答率にむらがある。	・今後も教科書のリスニングや単元ごとのリスニングテストを通じて、英語を聞き取る活動を継続していく。また、声に出して読むことにも重点を置き、英語ならではの発音に慣れさせる。 ・また、日々の授業で一方的な発話でなく、ALTとの授業を活動させながら、やり取りを充実させていく。
読むこと	○読むことに関しては、県より2ポイント上回っている。設問別では、語形・語法を問う問題の正答率は、おおむね県を上回っている。最大で15ポイント上回っている。 ●設問別で、資料の情報、条件をもとにした読み取りでは、正答率が低くなっている。	・今後も教科書の読み物教材を使用して、和訳ではなく内容の確認に重点を置いて、内容を理解しながら読む活動を取り入れていく。 ・図や表から読み取ることを苦手としている生徒が多いため、同様の課題を示し、練習させていく。
書くこと	○英文を正しい語順で書く設問の正答率は、おおむね県の平均を上回っている。 ●書くことに関しては、市、県よりも正答率が下回っている。 ●疑問詞を用いた英作文の正答率が特に低い。	・場面や条件を設定して、自己表現できる活動を充実させる。 ・適切な英文を書くための基礎となる文法事項の指導も、繰り返し行うことで定着を図る。

宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する本校の肯定割合は、市の平均より3.6ポイント、県の平均より6.3ポイント高い。昨年度から、定期テスト等の前に、必ず学習計画表を作らせ、計画的に学習することの大切さを指導したことにより、習慣づけられたと考えられるので、今後も継続していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の質問に対する本校の肯定割合は91.4ポイントで、県の平均より3.3ポイント、市の平均より1.5ポイント高い。今後も様々な場面で適切な支援をすることで、継続させたい。

○「授業の中で目標(めあて・ねらい)がしめされている」の質問に対する肯定割合は94.7ポイント、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に対する肯定割合は75.6ポイント、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の質問に対する肯定割合は89.4ポイントでいずれも市の平均を上回っている。どの教科でも、目標やねらいを明確に示して授業をはじめ、最後に学習内容を振り返る活動を行うことを継続していくことで、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせたい。

●「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問に対する肯定割合は市の平均より6.0ポイント、「友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の質問に対する肯定割合は市の平均より2.4ポイント下回っている。また「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対する肯定割合は46.7ポイントと低いので、対話的な活動で自分の意見を言ったり、周りの意見を聞いてさらに考えたりする場面を増やし、自信をもって自分の意見を発表できる力をつけさせることや誰もが自分の意見を言いやすいクラスの雰囲気づくりを行っていきたい。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の質問に対する肯定割合は県の平均より10.0ポイント、市の平均より8.6ポイント下回っている。良い家庭学習の習慣をつけさせるための指導を継続して行っていきたい。

●学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。の質問に対して、全くしないの割合は27.6ポイントで、県と市の平均より5.4ポイント上回っている。また、「1か月に、何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」の質問に対しても、1冊も読まないと答えた割合が16.4ポイントで県や市の平均を上回っているため、図書館の利用促進のための工夫をしたり、本に興味を持つような活動を取り入れたりして、読書量を増やすための働きかけを行っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○効果的な授業の振り返りを行い、家庭学習への意欲を高めさせる。	○「まとめ・振り返り」を意識した授業づくりを行う。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問に対する肯定割合は75.6%で県平均を3.4ポイント上回っており、本校の昨年度の肯定割合よりも17.5ポイント高い値となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の質問に対する肯定割合は79.6%で、市の平均を4.6ポイント、県の平均を4.0ポイント下回っている。	○話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫として、ものごとをいろいろな視点や立場から考える力をはぐくむ。	一条地域学校園(学習部会学力向上分科会)の重点目標である「話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫～ものごとをいろいろな視点や立場から考える力をはぐくむ～」に対し、各教科で工夫した実践を行う。